



第22回全国仏教壮年東北大会に参加して 平成29年9月2日開催

全国仏教壮年会東北大会に石井壮年会会長にお供させて頂きました。4月入門の新人ですが、出身が岩手で開催地東北でもあり、兄夫婦介護での定期的な帰省と合わせて日中の大会にのみ出席しました。

会長のご報告もあると思いますので私は東日本大震災被災地の出身者として自身の関わりの視点から一言感想を申し上げて報告とさせていただきます。

仙台港から程近い震災のお寺・専能寺のご住職の記念講演(法話)は当事者のみ知る自身の被災体験と被災者の最後の拠り所としてのお寺の役割や悲惨な状況の法話は聴聞するほどに強烈で涙が止まりませんでした。

あれから日本列島は熊本、大分大地震震災や九州豪雨水害など毎年毎年の災害が続き、余りに多すぎて記憶に残らないほどに頻繁さで本当に不安です。私の実家のある故郷は東日本大震災被災地では町の海岸部は津波震災しましたが、山間部の方は地震のみで無事でした。ところが震災から

日も浅い昨年の台風10号の水害では兄の入所している老人介護施設と同じ敷地内で、良く知るグループホームの9人全員死亡という悲惨な状況や留守の実家が洪水に襲われ大規模半壊になりました。そして仏壇の中から阿弥陀様の救出を頼んだりするという直接の関係者となると、それまで実感としては知らなかった自然災害の恐ろしさを肌身で感じました。

今回の東北大会の聴聞で、避けがたい災害の悲惨さを更に一層感じるとともに自身の災害体験を通して、東日本大震災の被災者の大変な苦難は、7年になろうとしている今尚まだ続いていると思うと心が痛みます。

最後に法話の講題は「たのむより先に」で、頂いた資料に親鸞聖人の浄土和讃

『十方微塵世界の念仏の衆生をみそなはし撰取してすてざれば阿弥陀となづけたてまつる』とありました。

早くこの御心が理解できるようにと、更に一層の精進を誓いたいと思います。(入月 正記)

浄土園

秋の収穫を終えて

晩秋の爽やかな朝、11月3日「文化の日」に中原寺浄土園の収穫祭を迎えることが出来ました。

昨夜からの雨が心配しておりましたが、朝には素晴らしい秋空にほっとしたところです。6日の立冬はすぐそこですが



当日は幾分暖かい天気の日でした。

さつま芋と里芋に今年は山芋も加わり収穫が楽しみになりました。スコップで掘り上げて里芋の出来がよく小芋が沢山採れ感激、さつま芋も数は少なかったがよい形のさつま芋でした。山芋は掘り起こすのに大変で、土深くにありスコップを深く入れて掘り、失敗すると山芋に傷がつきます。

作物は自然の力、お日様と雨の恵みを頂いて育ち、私たちに、そのいのちを与えてくれます。我々も感謝を忘れないように美味しく頂きました。

収穫が終わり、皆でバーベキューの準備をして火を熾し、さつま芋をアルミホイルで包み火の中へ。焼きあがりやを皆でフーフーしながらホクホクを味わいました。焼肉もこれもまた美味しくいただきました。

参加者をご住職、前坊守さん、坊守さん、壮年会6名、婦人会2名、参加者の皆様お疲れさまでした。

(村田 太喜夫 記)

中原寺・天真寺交流グラウンドゴルフ大会開催

平成29年11月10(金)に金ヶ作公園で恒例の中原寺・天真寺交流グラウンドゴルフ大会を開催しました。

参加者は当寺から住職・壮年会・婦人会のメンバー7名と天真寺はメンバー10名、総勢17名で腕を競いました。

当日は何とか天候も回復をして、絶好の競技日和で大会を楽しみ、また天真寺との皆さんと交流を深めました。

天真寺からは今回も坊守さんが参加され楽しい時間を過ごしました。

結果は、優勝には中原寺の山田敏彦さん、準優勝には天

真寺の大久保潔さん、当寺の住職が見事、第3位に入賞しました。

短い時間の中で、双方のお寺の門徒さんとの交流はなごやかなうちに次の開催を約束し終了することが出来ました。参加されました門徒の皆様大変ご苦労様でした。

(石井 保 記)



感話 シリーズ-23

親鸞聖人茨城ご旧跡参拝旅行に参加して

この度、10月24日(火)～25日(水)一泊二日のご旧跡参拝旅行に久々に参加させて頂きました。

両日共にお天気には今一恵まれませんでしたが大した雨模様にもならず、お寺の皆様と一緒に楽しい旅行が出来ましたこと有難く存じます。ご旧跡参拝旅行は一般的な観光旅行とは違い、日頃伺うことが少ない他寺院へ訪問し、親鸞聖人ゆかりのお話が伺える大変有意義な旅です。

初日は市川を朝早く(8時)出発し、最初に訪問したお寺は茨城県那珂郡米崎に在る関東二十四輩第十九番の「上宮寺」でした。ご聖人の生涯記には必ず登場するあの有名な山伏「弁円」(明法坊)が開いたお寺です。お寺の由縁についてご説明を頂きましたが現住職さまは上宮寺三十世を継がれており長きに渡る血脈に大変興味を抱きました。境内では丁度、銀杏が沢山落ちており、一人黙々とご門徒が掃除をされておりましたので、お寺のご様子などお話をさせて頂き、ご同朋の温もりを感じました。

昼食後は、国宝「白水阿弥陀堂」を見学しました。鎮守府將軍藤原清衡の娘がこの地に輿入れし、一寺を建立された処で、奥州平泉の泉を分字し白水と名付けたそうです。広大な浄土庭園は平泉の毛越寺を小さくした様な庭園で、往年の藤原一族の繁栄ぶりが窺える歴史的な国宝のお堂でした。

宿泊した「としまや月浜の湯」は大変サービスが行き届いたお宿で、夜の宴会は踊りやカラオケで盛り上がり楽しい一夜を過ごさせて頂きました。

翌日は、茨城県鉾田市鳥栖に在る「無量寿寺」を訪ねました。お寺は関東二十四輩第三番で、親鸞聖人が3年間この地に留まり布教後、弟子の「順信坊」にこの寺を託された大変由緒のある寺院です。本堂は趣きのある茅葺の屋根で最近修復を終えたそうですが、5年に一度は補修をしなければならないそうで、お寺の維持管理には大変ご苦労が多いようです。

この度の旅行は、二ヶ寺共に親鸞聖人との由縁深い史跡巡りの旅であり、ご聖人の足跡を肌で感じる事が出来たことを有難く思います。

最期に、この度の旅行を企画して頂いた壮年会の石井会長には、事前に下見までされたきめ細やかな準備に感謝申し上げます。誠に有難うございました。合掌



(多田羅 健二 記)